



4代目社長 松井 智さん

硫酸瓶の伝統を受け継いで

山陽小野田市は、ご存知のようにセメントや石油コンビナート、化学工業などがある工業都市です。市内に「セメント町」「硫酸町」の町名も残っています。小野田の硫酸瓶は有名ですね。以前は30余りの製陶工場があったようです。ところが、今は一軒が残っているのみになりました。その製陶工場が松井製陶所です。ただ今の社長さんは創業(1905)してから4代目の松井智さん(58才)です。

小野田の製陶業の歴史についておたずねしました。小野田で作られたセメントの材料は石灰75%と粘土25%なのだそう。石灰は美祢から、粘土は小野田で採掘されました。小野田の良質な粘土は吸水性はあっても水漏れしないという特異な性質があります。

鉄分が多く耐酸性もあつたことから硫酸を入れておくことができました。今では酒、酢、醤油、焼酎などの食品を入れると、適度に吸収されるために中の食品がまろやかな味になると評価されているようです。

硫酸瓶の生産が終わると次々と製陶工場は廃業となりましたが、松井製陶所はその後も蝟壺を作ったり、45年ほど前からは梅干の壺を作ったりして生き延びてきました。小野田の粘土を使った確かな技術が受け継がれているからなんです。

平成8年に現在の小野田橋が整備された際に建てられた硫酸瓶のモニュメント
(山陽小野田観光協会HPより)



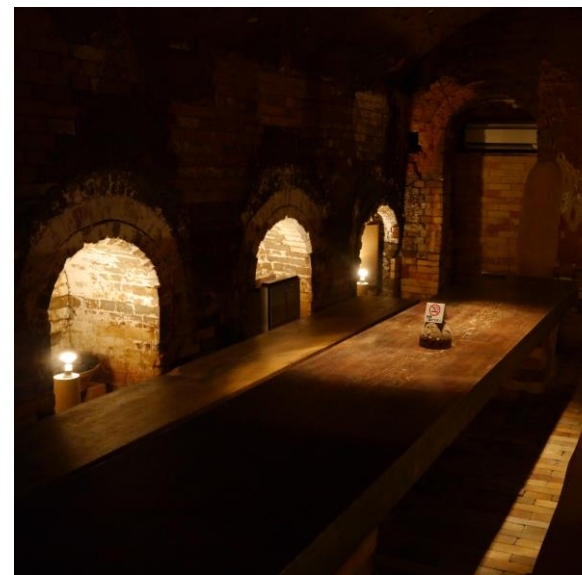
◀山陽小野田にも小さい中央硫酸瓶館がついてるよ

小野田産粘土の特性を生かした製品づくり

工場での作業を拝見すると障害者の方が4名、とても家庭的な雰囲気、長い方は35年も働いておられるとのこと。工場内の古い窯はムードあふれる小ホールにリニューアルされていて、ここでコンサートが開かれたこともあるそうです。



▲作業中のようす▲



▲コンサートも開かれるリニューアルされた工場内の古い窯



◀梅干しの壺

社長の松井さんの次なる企画はミニチュアサイズの硫酸瓶の商品化です。すてきな企画ですね。ぜひとも小野田銘菓の「せめんだる」と一緒に遠方にいる友人に手土産にして届けてあげたいと思いました。本当に完成が待ち遠しいです。製陶所では陶芸体験も受け付けています。興味のある方は工場をのぞいてみられてください。(文:まっし 写真:田中 信)